

スナメリプロジェクト



■スナメリプロジェクト とは

瀬戸内海沿岸にあるここ木原は、豊かな海と美しい景色、そしてそこに住む温かい人たちによって発展してきた魅力あふれる地域です。

この木原沖（学校のすぐ目の前）に二つの島『大鯨島』と『小鯨島』があり、かつてこのあたりにはスナメリがすんでいました。

今は見られなくなってしまったスナメリ。もう一度この木原にもどってきてほしいと願い、スナメリを呼びもどす活動、スナメリプロジェクトを立ち上げました。



木原小学校 玄関付近

※本プロジェクトは、公益財団法人 高原環境財団 より助成を受け活動しています。

■紀貫之も感動した木原の絶景（職員編集）

本校『創立 80 年誌』（昭和 31 年 10 月 25 日発行）の中に次のような文章がある。

郷土には悠久（ゆうきゅう）の歴史が流れている。歌人紀貫之は美しき木原の浜に一層の風情を添えるためか、柳を手植えされ其処（そのところ）が柳鼻（現小学校直下の海岸）となった。後年、頼春^注は故地を慕い、恐らく此辺（このへん）からの感慨（かんがい）と思われるが、「鯨島に題す」として漢詩を詠（よ）んでいる。

鯨島に題す

水墨円青誰意匠

島州各々对新晴

山雲明媚雌雄鷺

海霜依微大小鯨

すいぼく だれ いしよう

水墨円青誰か意匠せんや

とうしゅうおのおのしんせい

島州各々新晴に對し

さんうんめいび しゅう さぎ

山雲明媚にして雌雄の鷺

かいあいび よ

海霜微に依りて大小の鯨

意味

水墨画で円や青など誰が工夫できようか

（この美しさを絵にすることなどできない）

島々は雨上がりの晴天にあり

山雲は明媚であり 雌雄（つがい）の鷺が飛んでいる

海の霜（しも）がかかる中、大小の鯨が泳いでいる

注)

頼春 細川頼春（1299年〜1352年）

ほそかわよりはる

鎌倉時代後期から室町時代にかけて活躍。足利尊氏の命により阿波（今の徳島）及び備後（広島県東部）の守護となる。子、頼有（よりあり）も後年備後の守護となり、三原に在住。三原松寿寺に京より惟忠禅師を迎えるなど深いかかわりを持つ。



鯨島全景

手前が大鯨島，左奥が小鯨島



©Yahoo Japan, ©ZENRIN Yahoo 地図より

現在も、紀貫之が植えた「柳」に由来する地名が、残っている。

鯨（スナメリ）の言い伝えも残っている。
『三原昔話』（白松克太い著 みどり書店）
「年頭鯨」（P65）の項に詳しくのっている。

■スナメリ とは（児童調べ から）



HP より転載

クジラ目ハクジラ亜目ネズミイルカ科スナメリ属

- ・体長 150～170 cm
- ・体重 50～70 kg
- ・瀬戸内海最大の生物（イルカやクジラの仲間）

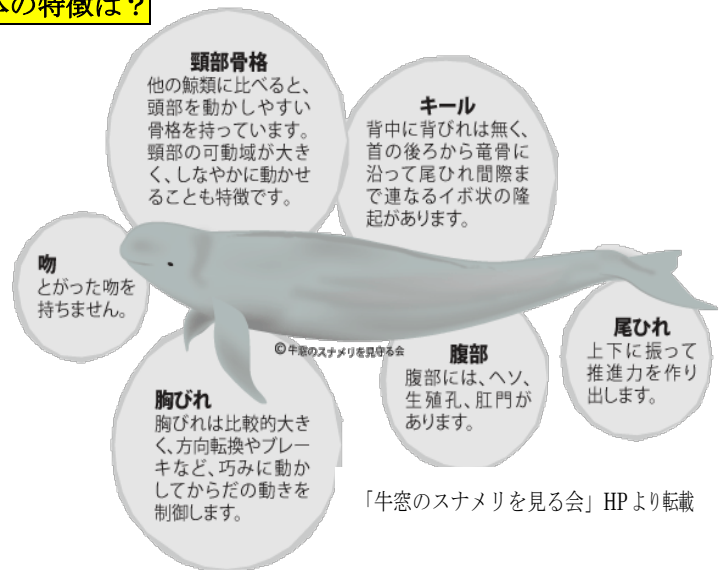
名前は何？

- ・スナメリ以外にも、「ナメ」「ナメノウオ」「ゼゴン」「ゼゴンドウ」などがある。
- ・漢字では「砂滑」。 (体表が滑らかで砂が滑る)

エサは何？

- ・エビ、タコ、イカ、コノシロ、イカナゴ、カタクチイワシなど

体の特徴は何？



「牛窓のスナメリを見る会」HPより転載

スナメリはクジラか？

学術的には4m以上をクジラといいそれ以下をイルカといいます。だから、あえて言えばイルカの仲間だと言えます。